

いいですか
美津日

草薙の巫女として
妖を退治し
人を助けるのが
あなたの使命です

はい

必ずや使命を
全うします

催眠遊蕩^{さいみんゆうとう}

生真面目巫女は
狡猾妖狐に墮とされる

この山で
妖が
暴れている、と

はい

先月から
山道を通る者が
襲われて
困っております

巫女さま
お一人で
大丈夫ですか？

分かりました
退治して
まいります

安心して
ください

私は草薙の巫女
ですから

クサナギ
つちゅうと
都の社に
仕えてる

あの？

こんな都から
離れた場所に
すごいお人が
来てくれたね



助けなきゃ！

伏せて！









まだ名乗って
いませんでしたね

しゅうう
宵雨と
申します

先ほどは
助けていただき
ありがとうございました

私は美津日
といいます

民を守るのは
草薙の巫女として
当然のことです

！

美津日様は
草薙の方
なのですね

ご存知
ですか？

はい

もちろんです

妖を退ける力を
はるか昔、ある巫女が
神から授かった

巫女の血を継ぐ
一族たちは代々
妖を退治し
人々を守る使命を
生まれた時から
負っている

その中でも草薙は
都の社にて
妖が都に入れぬよう

守護の結界を
任されている
特別な一族
と聞いております

そんな立派な
御方とは知らず

こんなあばら家
にお呼びしてしまい
申し訳ありません

あせ
あせ

いえ、
そんな……

顔を
上げてください



私は…
一族の中でも
力が弱い
未熟者です

守護の勤めが
できないから
外の妖を退治して

辛うじて
巫女の使命を
果たしているに
すぎません



本当にすごいのは
妹や両親など
都の守護を
任される方々で…

私なんか…

でも私を助けて
くださったのは
美津日様ですよ



あなたは
素晴らしい
方です

そんなにご自身を
卑下なさらないで
下さい



宵雨さんの言葉は
すつと胸に届く

不思議な方だ









ん

あれ？

私、何して
ただっけ？

あ、

えっとー！

そっか

ほ

あ

妖を退治して

それから！

あ、

あ、

宵雨さんの

家に――

はあ

あ、

んっ

ひゅっ

しよ、しよづう

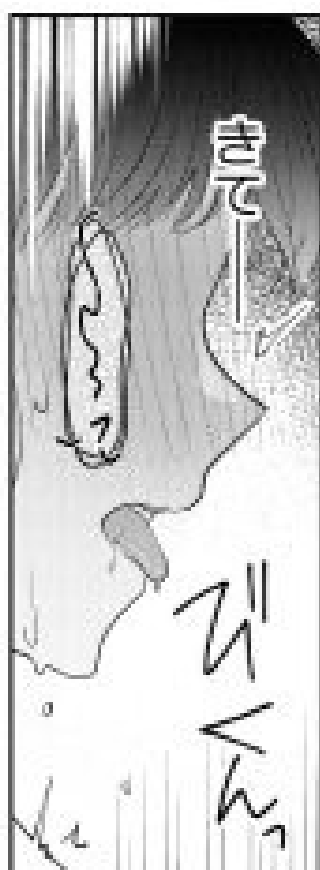
さん？

おや

術が解けて
きましたか

さすが
草薙の血ですね

ですが





私は人を殺したり
血肉を食むのは
好きじゃないんです

おしやべりしたり
こんな風に
可愛がれないと
つまらないですから



御覽の通り

あなたは、は

妖狐ですよ



あなたは
なしかに巫女として
未熟のようですね



巫女は勸が鋭く
術がかかりづらい
ため

香をかがせて
思考を鈍らせ
隙を作るのですが

昔会った
草薙の巫女は
私が仕向けた
大ムカデを
一撃で仕留め

術にもかからず
実に厄介でした



あの巫女と比べて
美津日様は

至極あつさり
かかって
くれましたよ



こえ
きこえてる

のに

さつきから
ほんやりして

うまく
かんがえられ
ない

私は



私は昔から
草薙の一族が
どういう者たちか
存じております

彼らは
都の社への
勤めが
何よりの誓れ

地方を巡って
小物の妖を
追い払うなんて…

能力が劣る
未熟者の雑事

あなたは
一族から
見放されたん
ですね

かみいそ
可哀想な
美津日様

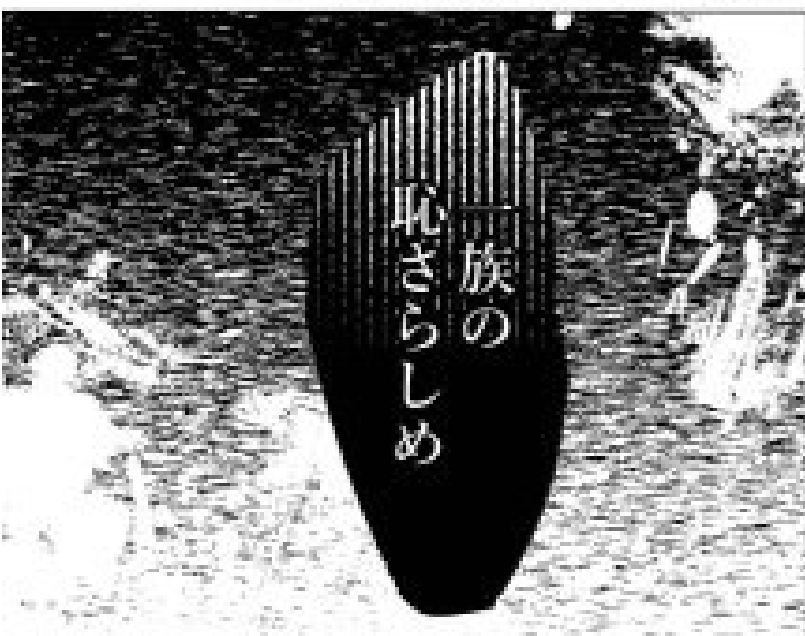
いいですか
美津日

草薙の巫女として
倦まず弛まず
使命に励みなさい

そうすれば
いずれ都に戻って
これるでしょう

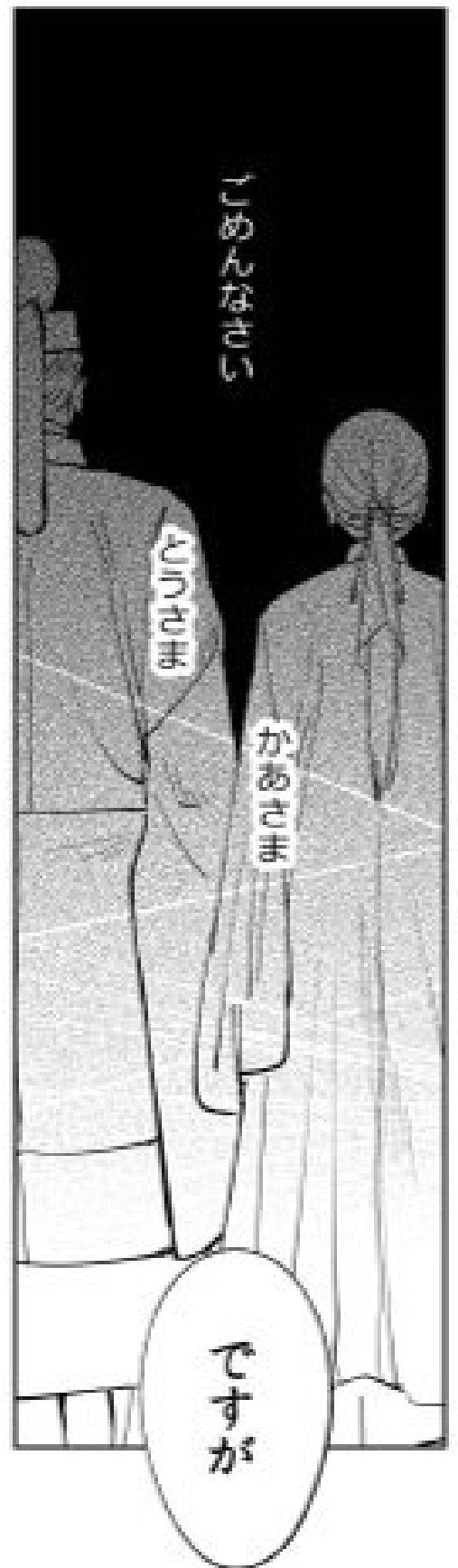


私、聞いてしまったんです





私はそんな
美津日様こそ
好きですよ



ごめんなさい

へうさま

かあさま

ですが



数刻の間
ほぐしていた
甲斐あって

すんなり
入りましたね



草薙の靈氣を
味わうのは
久しぶりです

じっくり
楽しませて
ください



気持ちいい
でしょう？

美津日様

忘れられぬよう
身体にしつかりと
刻み付けて
あげますからね



他の妖に
喰われなくて
幸いでした

巫女の靈氣は
妖にとって
最高のご馳走
ですから





何のために
がんばってるんや









次もたっぷり
可愛がって
あげましょう

楽しみに
お待ちしておりますよ

美津日様

安心して下さい



草薙の一族の
巫女だった
という話だ

ああ、あの…



そういえば
最近また外巫女が
行方知れずに
なっただけいな

まじのっ

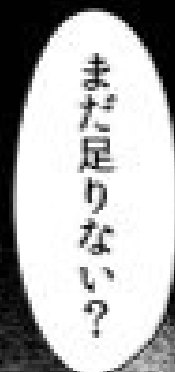


外巫女は道中
妖に襲われて
行方が分からなく
なることが多い

けれど
都に害が及ぶ
危険がない限り
放っておかれる
始末

それを見越して
草薙の家から
地方回りを
命じられたんだろう

かわいそうに

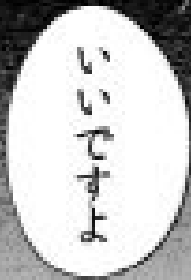


まだ足りない？

ギンッ

ギンッ

ギンッ



いらすまひ



ん



っ



あ

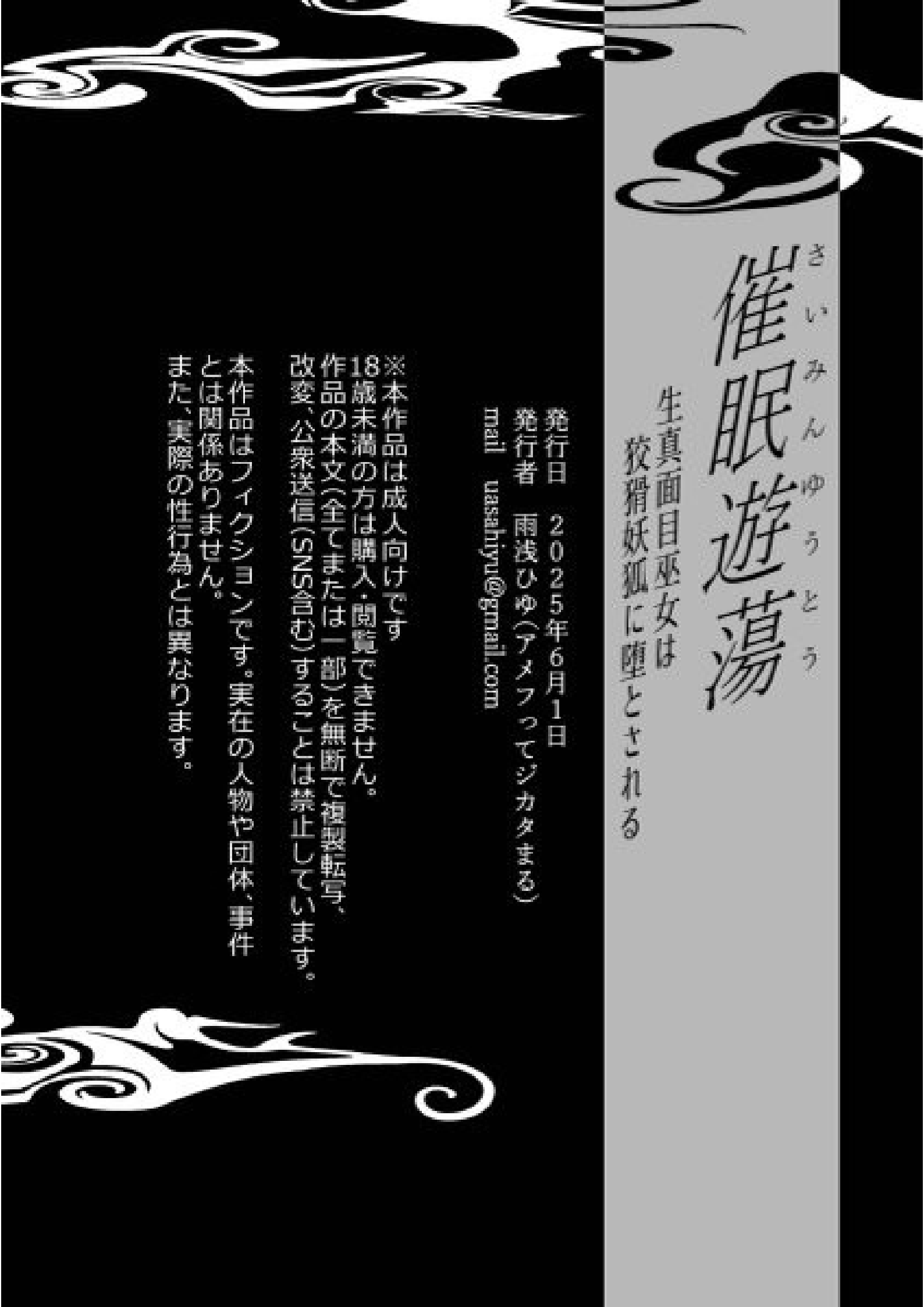
は

は



私の可愛い
美津日

報われない
使命など
忘れさせてあげる



催眠遊蕩^{さいみんゆうとう}

生真面目巫女は

狡猾妖狐に墮とされる

発行日 2025年6月1日

発行者 雨浅ひゆ(アメフってジカタまる)

mail usahiyu@gmail.com

※本作品は成人向けです

18歳未満の方は購入・閲覧できません。

作品の本文(全てまたは一部)を無断で複製転写、

改変、公衆送信(SNS含む)することは禁止しています。

本作品はフィクションです。実在の人物や団体、事件とは関係ありません。

また、実際の性行為とは異なります。







足を開いて
座って下さい

ああ

手も足も
傷だらけですね

一人の旅は
さぞ辛かった
でしょう

途中で
辞めてしまえば
こんな目に
遭うことも
無かったでしょうに



わんわん

は





ズン

このまま
入れてしまうのも
つまらないですし

そうですね

草薙の血ですから
そのうち術が
解けるはず……

その間ここを
じっくりほぐして
あげましょう

美津日様の場合
解けるまでにだいぶ
かかるでしょうが

安心して下さい

焦らずとも
時間はたっぷり
ありますから



催眠遊蕩

生真面目巫女は
狡猾妖狐に
堕とされる